

灌水量制御により”甘い大玉トマト”を収穫できる栽培条件を調査する

メンバー：内田邦彦、長谷川壽男、森岡里依、大和弥寿子、小池博人、富松一隆、橋本治、高橋秀子

1. テーマ選定理由：26期生の研究栽培において、中玉トマトで土壌水分量を管理することにより甘いトマトを収穫できることが判明しているが、畝栽培であったため雨水の侵入や鳥害・風害等より最適な栽培条件の確定には至っていない。また、大玉トマトでの検証ができておらず、これを明確にする。
2. 調査方法：降雨や鳥害の影響を避けるため、ビニールハウス内の畝に苗毎にプランターを設置し、大玉トマト「桃太郎ファイト」を栽培する。マニュアルで推奨される灌水量を標準とし、試験区により標準区の2倍・2/3・1/2・1/3と灌水量を調整し、収穫できるトマトの大きさ・重量・糖度や試食による官能試験を行い、灌水量による差異を評価する。
3. まとめ：一般のトマトの糖度は4~6であり、糖度8以上が高糖度トマトと呼ばれる。灌水量を抑制することにより、大玉トマトの生育が抑えられ、小さいながら糖度の高い甘いトマトを収穫することができる。小さいトマトほど糖度が高く、50gほどの小ぶりの中玉トマトでは12に近い糖度値を示す。糖度の高いトマトは甘味、酸味、コク(味)も高評価となるが、小さいため皮が厚く、口に残るといった問題点がある。スーパー等で市販されるトマトは、倍量区とほぼ同等の糖度値を示し、灌水量制御したトマトは市販トマトより糖度が高い。

大玉トマトとされる200g以上の大きさと糖度8以上の甘いトマトを、収穫量を落とすことなく実現することが目標であったが、これらの同時実現が課題として残された。事前にトマト栽培専門農家を訪問見学し、ノウハウ等の聴取を行うべきであった。

